

行動計画策定のねらい（概要のまとめ）

アンケートの結果、各地区では、行動計画を策定する“ねらい”を以下のように捉えていることがわかりました。

●地区の現状（強み・弱み、特徴、魅力）を再認識する。【5地区】

⇒再確認後、課題を明確にして、改善の機会とする。【うち2地区】

●今までの事業・活動を整理して、実施する意義を再確認する。【15地区】

（整理後、）

⇒意義を意識する。【うち4地区】

（誰もが気軽に楽しめる、住民から理解が得られる行事、子どもや老人も参加しやすい事業 等）

⇒事業を体系化する。【うち4地区】

（複数事業の統合、既存事業を新体系に再構築する）

●目標を共有する。【18地区】

（共有後、）

⇒区民の参加意欲を高めるため、地域活動のコンセプトをしっかりと定める。【うち7地区】

⇒構成団体が一枚岩になりきるコンセプトを定める。【うち1地区】

⇒5年後の地区のイメージと達成の為の過程を地区全体で共有する。【うち2地区】

⇒無理のない行動計画を立案する。【うち1地区】

●計画づくりを通じて地区の協力体制をつくる。【24地区】

（計画づくりを通じて、）

⇒地区全体の参加意欲を向上する。【うち3地区】

⇒部会・団体の協力体制を強化する。【うち14地区】

（話し合いを通じて部会の関係を強化、各団体の貢献度の確認、情報共有による活動への相乗効果、効率の良い地域活動にする 等）

⇒各団体の自主性を尊重する。【うち1地区】

●組織の体制を整える。【3地区】

⇒将来に向けて継続できる仕組みを構築する。【うち1地区】

⇒目的と役割分担の共有により透明性の高い組織とする。【うち2地区】

●地域活動を継続するための人材を育成する。【1地区】

●わかりやすい計画内容とする。【1地区】

⇒小学生でもわかる内容にまとめる。

各地区のねらいを取組の参考にしてください。